

たゆ久貴 新人議員の奮闘記

地域のみなさんの願いにこたえて

上の原公園の水たまり、改善へ



▲最初の工事できた浸透施設

住民のみなさんからの声にこたえ、市の職員にも現場を見てもらい、議会でもとりあげ、二度にわたって改善工事が行われました。

その他にも…



▶新小金井街道の歩道がへこみ、雨が降ると水たまりができた問題を改善（写真は改善後）。



▲北大通り（小金井郵便局から西側）の危険な凸凹の修繕が実現（写真は改善前）。

中町で、害虫問題を解決

住民の方からの声を紹介しします。▼

たゆさんSOS (中町在住 一住民)

昨年夏ごろ、公道に隣接した私道の椿の木にチャドクガの幼虫が大発生。幼虫の体毛は毒のある細かい針状になっており、近所の方々や公道を通る幼稚園児たちへの脅威となっております。木の所有者とは連絡がとれない状態でしたので、たゆさんに相談したところ、その日のうちに現場に来て確認。市の環境係を通して木の所有者と連絡がとれ、気持ちよく伐採のはこびとなりました。被害が出る前のすみやかな対応、関係者へのていねいな説明がカギでした。市民の声に敏感な市議会議員。大切な存在ですね。

実現へたゆまずダッシュ

コロナ対策…医療、介護、福祉、保育などの職員、利用者のPCR検査強化。中小業者の営業支援

介護改善…高い保険料、利用料の負担軽減。軽度者のサービス取り上げ許さない。特養ホームの増設。障がい者サービス守る
奨学金…市独自策の制度拡充。国や東京都に返済不要奨学金の拡充を要求

住宅、国保…高齢者や障がい者が入居できる住宅不足の改善。国保税の負担軽減



32歳

日本共産党

小金井市議会議員(1期)



たゆ 久貴

田湯ひさき

市議会議員になって4年間、「現場の声がなにより大事」を信条に、みなさんの声を市政に届けてきました。コロナの問題は、医療や介護はじめ社会保障を削ってきたことが、いかに重大だったかを浮き彫りにしました。いま多くの方から困ったとの声、不安の声が寄せられています。この声にこたえるために、全力をあげます。再び市政で働かせてください。

プロフィール●1988年東大和市生まれ。都立武蔵野北高校、東京理科大学理学部応用化学科卒。デイサービス職員などを経て2017年小金井市議に初当選。趣味はジョギング、音楽鑑賞。貫井北町在住。

たゆまずチャレンジ2期目に挑戦

そして、コロナ禍から市民の命とくらしを守るために

介護改善、若者に希望を

新人議員の奮闘記

ぜひ中面を開いて
ごらんください→→



介護職員の経験いかし 何度も質問、貴重な前進も



介護職員を経験してきたたゆさんにとって、介護・福祉の改善が一番のテーマ。経験をいかし、現場の声を届けて何度も質問をしました。最初は、とりあげても、なかなか改善につながらず、もどかしい思いがつのりました。しかしあきらめずに、くりかえし何度も議会で質問するなど、必死にとりくむ中で、うれしい変化もおきました。

介護施設へのPCR検査が実現

たゆさんは、介護施設の職員や入所者へのPCR検査を無料で行うようくりかえし質問。年末、市は都の制度も利用して障がい者施設も含め実施にのりだすことになりました。

介護人材の確保へ、新制度

介護職員になるには初任者研修の受講が大切ですが、その費用は自分持ち。そのため数万から十数万のお金がかかりました。ただでさえ人材確保が大変な介護現場。たゆさんは負担軽減を訴えました。当初、実施に消極的だった市は、2年前から、研修を市直営で実施するようになり、負担はゼロとなりました。また介護施設が職員の宿舎を借り上げの際の補助制度も新たにできました。

本町住宅内に特養ホーム、実現へ

たゆさんに期待(本町Hさん)
たゆさんは私たち高齢者の困難や願いを真剣に聞いてくれて、特養ホームの実現に頑張ってくれました。誰もが安心して暮らしていける市政に変えてくれると期待しています。

長年にわたって住民のみなさんが運動してきた「本町住宅のなかに特養ホームを」の願い。いっしょにとりくみ3年後に開設するはこびとなりました。

高齢者へのエアコン設置補助も

猛暑により高齢者がエアコンがないため熱中症になることが全国で大きな問題になりました。たゆさんは実際にエアコンのない方から「暑くて死にそうだ」という声を聞いて市にエアコン設置への補助を訴えました。これも最初、市は消極的でしたが、今年の夏に補助制度が実施されました。

市の奨学金拡充へ 条例提案、あと一歩まで変化

今度こそ
実現を

奨学金という名の借金。たゆさんも、毎月3万円返済しています。奨学金の拡充は、介護改善と並んで、たゆさんの大きなテーマです。議会でくりかえし市の奨学金の金額や対象の拡充を求め、さらに条例も提案しました。提案は委員会では可決されるも、本会議で一票差で否決。悔しさを胸に「次こそは実現を」と決意。



「提案者」側にたつて質疑に臨むたゆさん

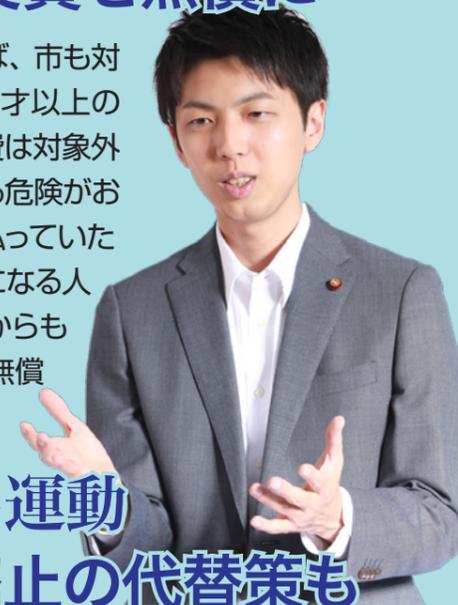
日本共産党 たゆ久貴

市議会議員になって驚いたこと ——曖昧模糊(あいまご)の“議会答弁”

議会で質問してびっくりしたのは、市側の答弁の不可解さです。理系だったたゆさん、「因果関係と結論をはっきりさせる」から始まるのが普通と思っていましたが、当局は、結論はなかなか言わない、かわずばかりで結論がない答弁もありました。大変だと思いました。

不条理なことは、ほっとけない ——保育所の給食費を無償に

しかし、市民の声や実態を示せば、市も対応せざるをえないことも…。国が3才以上の保育無償化したとき、給食食材費は対象外としたため、給食費負担が発生する危険がおきました。人によっては、これまで払っていた保育料より多い給食費を払うことになる人もでる——これはおかしい。市民からも陳情が出され、たゆさんも質問で無償化を要望。無償が実現しました。



市民と一緒に署名運動 ——「みどり号」廃止の代替策も

市の社会福祉協議会が福祉活動支援を目的に運行していた大型バス。低負担で利用でき、大変よく利用されていました。しかし市はそれを廃止。たゆさんは市民と一緒に署名を集め、不十分ながらも代替策として町会に30万円などの補助ができることに。

生活の実態つきつけ ——国保税連続値上げを止めさせる

後半の2年間は国民健康保険の運営協議会委員も務めたたゆさん。議会での質問でも、三多摩で1番高い国保税問題をとりあげ、負担がいかに重いか、資料もしめして、やるべきは値下げだと迫りました。連続値上げが、来年度は止まることになりました。

市民の悲鳴を聞いて ——無慈悲な差し押さえ止めさせる

国保税の問題では、払いたくても払えない方に、無慈悲な差し押さえも。相談をうけたたゆさんは、市に実態を示し、止めさせました。